

第42回 群馬学連続シンポジウム

鎌倉武士の アーバニズム

《都市的性格》

～ 京都・鎌倉、そしてぐんま ～

2022 **12.10** SAT 13:30 - 16:00

会場／群馬県立女子大学 2号館 第1講義室

参加費／500円 (大学生以下無料)

先着 定員
100名
※事前申し込みが
必要です。

◎ 講演

北条時政妻牧の方のネットワーク

～ 京と地方のつながり ～

共愛学園前橋国際大学 教授 野口 華世

庭園史からみた鎌倉武士の文化力

日本考古学協会 日本庭園学会 理事 足立 佳代

鎌倉殿と御家人の造像

～ 運慶様から鎌倉スタイルへ ～

群馬県立女子大学 教授 塩澤 寛樹

◎ パネルディスカッション

地域からみた武士の都市的性格

パネリスト 野口 華世 足立 佳代

塩澤 寛樹

コーディネーター

群馬県立女子大学 准教授 築瀬 大輔

2大参加特典!

1 本シンポジウムの記録集となる地域学ブックレット・群馬の歴史と地域遺産VOL.12『鎌倉武士のアーバニズム〈都市的性格〉～京都・鎌倉、そしてぐんま～』(来年度刊行予定)を贈呈します。

※配布方法は別途ご案内します。

2 当日会場で、地域学ブックレット・群馬の歴史と文化遺産VOL.1～9を無償で頒布します。

お申し込み・お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係

〒370-1193

群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

電話：0270-65-8511 (大学代表)



〈申し込みフォーム〉

※新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、中止となることもあります。※当日は受け付けで検温と手指消毒をしていただき、館内では必ずマスクを着用してください。

《主催》群馬県立女子大学

《後援》玉村町 上毛新聞社 群馬テレビ FM GUNMA 群馬県地域文化研究協議会 群馬歴史資料継承ネットワーク

第一部

第二部

第42回 群馬学連続シンポジウム

鎌倉武士のアーバニズム

～ 京都・鎌倉、そしてぐんま ～ 《都市的性格》

日本列島の大半を日本というアイデンティティをもつ人々が統合するようになっておよそ1300年。そのうち武士という職能、価値観、ステータスをもつ人々が国や地域を統治したのが700年。実に日本の歴史の半分以上は武士の時代であった。

かつて、「武士は、平安時代後期の王朝貴族が栄華を極めていた頃、地方の草深い農村に誕生し、自ら鎌を振るって土地を切り開き、その土地を自衛するために勇猛な武士団を形成した。そして京都の貴族政権を打倒して鎌倉に武家政権を打ち立てた」と理解されてきた。王朝文化を謳歌する柔弱で「女性的」な貴族に対し、粗野で無教養（低い知的水準）だが質実剛健で「男性的」な武士がこの国の形と思想を作っていったという歴史観である。

現在ではそのような理解は否定されている。武士は王権の武力を担う下級貴族や官人層という実に都市的な社会勢力として誕生し、王権守護のための武的技術や知識を継承する家を形成して都と辺境、さらに諸国へと配置されたことで広域的なネットワークを形成した優れて都市的な社会勢力だと理解されている。

それでもなぜ日本人は武力行使を専業とする集団を国家や地域の統治者として700年もの間支持し続けたのであろうか。このことに対して地域学たる群馬学はどう問題共有できるのだろうか。本シンポジウムでは、武士が本来的に備えていた都市的性格（アーバニズム）と、都市と諸国を往来するネットワーク機能に注目することで、地域形成史の中で武士が果たした役割を捉え直してみようとするものである。

講師プロフィール

野口 華世 共愛学園前橋国際大学・教授 のぐち はなよ / Hanayo Noguchi

1972年 東京都生まれ
東京都立大学大学院博士課程単位取得退学 日本中世史 博士（史学）
お茶の水女子大学附属高等学校教諭・東京大学史料編纂所特別研究員などを経て、2012年より共愛学園前橋国際大学に着任。
共編著に、『吾妻鏡』でたどる北条義時の生涯（小径社、2021年）。『増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう—』（勉誠出版、2021年）。共著に『恋する日本史』（吉川弘文館、2021年）。論文に「中世天皇からみる新田荘の成立」（『群馬文化』334号、2018年）。「女院女房の荘園知行」（『歴史評論』850号、2021年）など。
前橋市教育委員会外部評価委員、群馬歴史資料継承ネットワーク（ぐんま史料ネット）副代表。

足立 佳代 日本考古学協会・理事、日本庭園学会・理事 あだち かよ / Kayo Adachi

1965年 足利市生まれ
立正大学大学院博士課程後期中退 日本考古学
足利市教育委員会文化課、立正大学博物館学芸員などを経る
「上野国赤岩山光恩寺の浄土庭園と前方後円墳」（『令和3年度 日本庭園学会全国大会 研究発表会・オンライン座談会資料』日本庭園学会、2021年）。『国宝鏝阿寺本堂をめぐって』（『とちぎを掘る 栃木の考古学の到達点』随想舎、2016年）。『発掘された下野の中世寺院』（『東国の中世遺跡—遺跡と遺物の様相』、随想舎、2009年）など。

塩澤 寛樹 群馬県立女子大学・教授 しおざわ ひろき / Hiroki Shiozawa

1958年 名古屋市生まれ
慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻卒業 日本彫刻史 博士（美学）
神奈川県立歴史博物館、日本橋学館大学を経て、2014年より現職。
著書に『鎌倉時代造像論』（吉川弘文館、2009年）、『鎌倉大仏の謎』（吉川弘文館、2010年）、『仏師たちの南都復興—鎌倉時代彫刻史を見直す』（吉川弘文館、2016年）、『大仏師運慶—工房と発願主そして「写実」とは』（講談社、2020年）など。
NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の仏教美術考証を担当。インターネットプラットフォームの「note」上に「運慶の風景」を連載中。上毛新聞第31期オピニオン委員。

築瀬 大輔 群馬県立女子大学・准教授 やなせ だいすけ / Daisuke Yanase

1965年 伊勢崎市生まれ
國學院大学大学院文学研究科博士課程後期修了 日本中世史 博士（歴史学）
群馬県立板倉高等学校教諭、県教育委員会文化財保護課、県立歴史博物館学芸員を経て、2018年より現職。
著書に『小田原北条氏と越後上杉氏』（吉川弘文館、2022年）、『関東平野の中世』（高志書院、2015年）、『上野の戦国地侍』（みやま文庫、2012年）、共編著に『中世の北関東と京都』（高志書院、2020年）、『北関東の戦国時代』（高志書院、2015年）、共著に『戦国一上州の150傑—』（上毛新聞社、2021年）など。
群馬県文化財保護審議会専門委員、群馬歴史資料継承ネットワーク（ぐんま史料ネット）代表。

参加申し込み方法

先着
定員
100名

次の①・②のいずれかの方法で、2022（令和4年）年12月8日（木）までにお申し込みください。

※新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、中止となることもあります。

① インターネット（定員50名）

大学ホームページまたは下記QRコードからアクセスし、氏名・住所・メールアドレス等を入力してお申し込みください。



（申し込みフォーム）

② 電話（定員50名）

群馬学連続シンポジウムに参加希望の旨及び「氏名」、「住所」、「電話番号」をお伝えください。

◎受付時間／平日9:00から17:00まで ◎電話番号／0270-65-8511（大学代表）

※当日は受付で検温と手指消毒をさせていただき、館内では必ずマスクを着用してください。

会場で、地域学ブックレット・群馬の歴史と文化遺産の
バックナンバーを無償頒布します。

- Vol.1 『本能寺の変と地域学 —群馬・1582年・夏—』
- Vol.2 『群馬の土木遺産の魅力 —めがね橋から矢木沢ダムまで—』
- Vol.3 『新田源氏研究の最前線 —ぐんま源氏ブランドの潮流—』
- Vol.4 『国際主義と渋沢栄一 —青い目の人形が見た光と影—』
- Vol.5 『近世草津再考 —「慈悲」で読み解く草津温泉の江戸時代—』
- Vol.6 『西上州・東上州の誕生 交感する中世の神話と歴史』
- Vol.7 『近代化遺産 総合調査の30年』
- Vol.8 『紋章の地域学 —家紋・寺社紋研究の現状と課題—』
- Vol.9 『ミュージアムと地域のステキな関係 —地域に発信するミュージアム、そして県女—』

お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係

〒370-1193 佐波郡玉村町上之手1395-1

・TEL/0270-65-8511 ・FAX/0270-65-9538

・E-mail/gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp ・WEB/http://www.gpwu.ac.jp/